

兵庫県保険医協会北阪神支部

—新春政策研究会・懇親会のご案内—

自衛隊阪神病院 地域医療への役割

講師 自衛隊阪神病院院長
森崎 善久 先生

日時 **2012年1月21日(土)** 16:00 ~ 17:30

会場 **家庭料理 うめ家** (ご参加の方には詳細地図をお送りします)
(伊丹市宮ノ前1-2-34 阪急伊丹駅から徒歩約5分)

懇親会 17:30 ~ (於: 同上 参加費: 5,000円)



自衛隊阪神病院は、1966年の開設以来「自衛隊の中部地区の基幹病院として、質の高い医療を提供し…信頼される病院を目指すこと」を基本理念として診療にあたってこられました。昨年4月1日から保険医療機関となり、一般開放されています。これは、医師不足など地域医療を取り巻く厳しい現状に貢献しようとするもので、これまで利用できるのは自衛隊員とその家族の方が原則でしたが、現在は地域住民が外来・入院とも通常の保険診療で利用できるようになっています。

この度は院長の森崎生をお招きして一般開放に至る経緯と今後の方針をおうかがいし、私たち一般開業医との連携の在り方についても意見交換できればと考えています。温かい鍋を囲みながらの企画です。お気軽にご参加ください。



(切り取らずに返信ください) 【FAX返信】078-393-1802

●1月21日(土)政策研究会に

・() 出席する () 名 *人数をお知らせください

地区 _____ 医療機関名 _____
御氏名 _____

兵庫県保険医協会

北阪神支部 ニュース

2011年12月15日号 No.217

発行者 兵庫県保険医協会北阪神支部
支部長 中井通治

〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-2-31
神戸フコク生命海岸通ビル5階

(078)393-1801 FAX(078)393-1802

http://www.hhk.jp/

第28回地域医療懇談会を開催

病診連携強化の意義確認

近畿中央病院・小林副院長ら話題提供

北阪神支部は12月3日、伊丹市立商工プラザで協会第28回地域医療を考える懇談会を「がん患者の病診連携クリティカルパス～阪神地域の場合」をテーマに開催(地域医療部と共催)。近畿中央病院副院長の小林研二先生、同外科医長の西岡清訓先生、カモミール訪問看護ステーションの下茂朋子氏、川村雅之副支部長を講師に59人が参加した。



林副支部長(右端)を座長にディスカッション

小林先生は、地域がん診療連携拠点病院としての近畿中央病院の役割を「診療体制、研修体制、情報提供体制を確立し、地域チーム医療を推進すること」とし、がん患者に対する診療全体を体系化した「がん地域連携パス」の詳細を説明。特に胃がん術後の連携医との役割分担や緊急時マニュアルを紹介した。

西岡先生は、肺がん治療の連携パスを示す中で、80年代からの肺がん手術の変遷と最新の手技を動画で紹介。「この10年で胸腔鏡下の切除術が飛躍的に発展。比較的低侵襲で短時間の手技が確立されつつある」とし、がん診療拠点病院としての到達をアピール。「肺がんの患者の多くが高齢者で、肺気腫、高血圧、糖尿病等の余病を抱える。拠点病院とかかりつけ医が連携して治療にあたることで患者にとってメリットとなる」と呼びかけた。

下茂氏と川村副支部長からは、在宅がん患者の看護例、歯科治療例の中から、現時点での取り組みの紹介と、現行のクリティカルパスが、将来的にがん末期ケアや歯科分野まで及んだ際の提言が行われた(次号に感想文紹介)。

在宅医療研究会「認知症」感想文

地域連携の必要性痛感



土山理事の講演に67人が学びあった

北阪神支部は11月10日に宝塚ホテルで、在宅医療研究会「認知症の基礎知識～アルツハイマー型、レビー小体型、前頭側頭型」を開催。講師土山雅人協会理事を講師に、67人が参加した。参加者の感想文を紹介する。

認知症に対する市民の関心は、医師の間でも徐々に認知されつつありますが、一般の方々の方がより高いことを感じるこの頃です。それに伴い、行政も関わって医療連携におけるかかりつけ医と専門医をつなぐサポート医の育成が急がれています。そんな矢先、認知症の基礎知識というテーマに目が留まり参加させていただきました。つちやま内科

クリニックの土山雅人先生によるお話の第一歩は、難しい分類ではなく、認知症のとらえ方について先生のイメージを語ってくださいました。また、認知症という言葉を使う時、知的機能の落ちた状態である認知症症状と、認知症症状をきたす疾患という意味で認知症疾患と、両方の意味が混同して使われるのでとらえにくい一面があると指摘されました。

その後、認知症の中でもアルツハイマー型(以下AD)、レビー小体型(DLB)、前頭側頭葉型(FTD)の三つについて、神経内科の立場から解説されました。いずれも脳における進行性の変性疾患であり、やがて死に至るということを強調し、これらについて各々の症状、状態の違い、重なってくる部分などを解説、その違いから治療や対応の仕方も違ってくることを話されました。

クリアカットなお話、「ようし、これで私も明日から認知症を診れるかも・・・」と思いかけてました。しかし、患者1人の脳にはAD型病変やDLB型病変あるいは脳血管障害の病変が混在していることがまれではないとのことで、そんな生易しいものではないとわかりました。

同情や思いやりだけでは対応できないと同時に、病名をつけるということにこだわったり、治療をするだけでも対応できないものであり、家族、介護者、包括支援センター、医療者が、その人の症状、病態に応じた対応をしていく必要があるとのことから、地域連携を進める必要性を痛感いたしました。

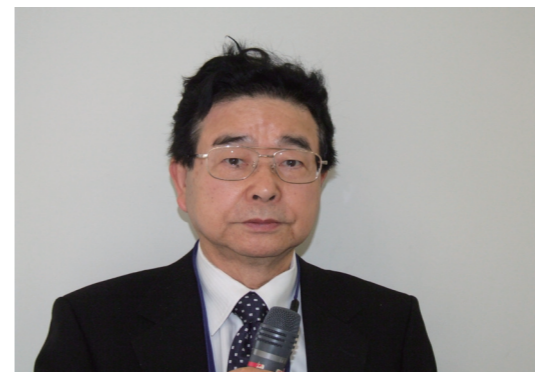
【伊丹市 荘司 康嗣】

兵庫県保険医協会・第80回評議員会

協会は11月20日、協会会議室で第80回評議員会を開催。討論では北阪神支部から谷口紀善(伊丹市)、金川清人(宝塚市)両評議員が発言した。発言要旨を紹介する。

谷口紀善評議員

「増税亡国政権審判下すべき」



「TPP参加は亡国への道」と谷口先生

私たちは後期高齢者医療制度など自公の悪政について抗議し政権交代を実現したが、国民の期待は大きく裏切られた。野田政権は震災復興という美名のもと、増税を断行しようとしている。また、日医も反対署名を行っている受診ごとの100円上乗せや、介護料のアップ、老人の窓口負担を1割から2割になど「年寄り早く死ね」という受診抑制策だ。かえって重症化し

医療費が増大することがわかっていない。

TPP参加で混合診療が解禁されれば、日本が世界に誇る国民皆保険が崩壊することはいうまでもない。消費税増税で国民生活はますます悪化する。真に国を愛し、政治・経済の理念を探求し、国民の繁栄と幸福を考えているとは到底思えない。国民が豊かにならなければ国は栄えず滅びる。増税・亡国政治に対し執行部はどう考え、どうするつもりか。

金川清人評議員

「原発・新エネ市民と考える」



「地域医療懇にご参加を」と金川先生

北阪神支部では東日本大震災直後から、原発問題についての取り組みを強めている。7月には郷地秀雄副理事長の特別研究会「原発事故と内部被ばく～被ばく者医療の経験から」を実施。市民も含め118人が参加した。10月の支部総会でも、元京都大学原子炉実験所教員の岩本智之氏による特別講演「原発安全神話の崩壊と代替エネルギー～福島第一原発事故から考える」を開催し、会員や市民など64人が参加した。

12月には「がん患者の病診連携クリティカルパス～阪神地域の場合」をテーマに地域医療を考える懇談会を開催する。他支部からの参加をお待ちしている。

■会員専用のメーリングリストを開設しております。

登録いただける方は下記までお知らせください

e-mail:hyogo-hok@doc-net.or.jp

TEL:078-393-1801 FAX:078-393-1802